



南っ子だより



学校教育目標 「共に輝く たくましい 南っ子」

重点目標 「自分の考えをもち、表現しよう」「人を大切にしよう」「目標におかっ、挑戦しよう」

文責 飯田 英晃
伊豆市柏久保 425-1
0558-72-0149

持久走大会の見直しについて

伊豆市立修善寺南小学校 校長 堀江 健司

運動会間近となり、練習も佳境に入っています。そのような中ですが、運動会後には関心が高まるであろう持久走大会の見直しについてお伝えします。

昨年度の PTA 運営委員会や学校評価に出されていたことや昨今の道路許可事情、学校周辺住民の意見等から、「本年度から持久走大会は校外に出ない」ことが決定されています。そこで、持久走大会の在り方について、検討を重ねてきました。

まず、学習の指標となる「小学校学習指導要領」によりますと、「体ほぐしの運動」の中に

- ・ 1, 2年「無理のない速さでかけ足を2～3分程度続けること」
- ・ 3, 4年「無理のない速さでかけ足を3～4分程度続けること」
- ・ 5, 6年「無理のない速さで5～6分程度の持久走をすること」

と例示されています。昨年度の記録を見ますと、1, 2年で5～14分、3, 4年で7～15分、5, 6年で8～15分と、例示からかなり逸脱しているといえます。そもそも距離に対する規定はありません。同じ学年だからといって同じ距離を走るとは、個々の負荷を考えると適切か疑問が残ります。

過去、持久走が苦手な児童が言っていた言葉を思い出します。「おうんはうれしいけど、はやく走れないんだ。それが一番くるしい。特にさいご一人になったときはじごくだ。」きっと、この子は「持久走なんてきらいだ、一生走らない」と考えたでしょう。この子に限らず、多くの子が持久走は嫌いと考えているのではないのでしょうか。また、心肺機能が十分発達していない児童期に過度な運動をすることは成長を阻害するという説もあります。生涯にわたって運動に親しみ、体力向上、健康増進を図る体育の目標から考えても持久走大会の見直しは必要です。近隣の小学校でも見直しが進んでいます。

では、持久走大会をやめるのかというと、そうではありません。過去の持久走大会を否定するわけでもありません。目標にむけ競い合って努力すること、寒さや苦しさに負けない精神を養うこと、長く走り続ける技能を身につけて体力を向上させること等、さまざまな価値があります。その価値をなるべく生かして、方法を変えて実施していきます。

詳細はまたお伝えしますが、持久走大会は、「校内で」、「走る時間を決めて」実施することとします。「持久走記録会」と言った方が適切かもしれません。

多くの保護者が参観する中で実施してきた持久走大会ですので、見直しに当たりご意見があるでしょう。子供たちの中にも持久走大会での順位を目標にしている子もいます。しかし、目的に即した学校行事とするため、ご理解ご協力をお願いします。

校内のトラックで実施した場合、見ている人はごちゃごちゃしていてよくわからないということになるでしょう。しかし、子供たちにとってはどのぐらいの距離を走れたという結果がわかり、それが目標にもなります。運動会や参観会、学習発表会のように、参観者を表現する対象として実施する行事はありますが、持久走記録会はその点では見る人に配慮していないことになるかもしれません。

順位や勝負ということを避けているわけでもありません。見た目ではわかりにくいのですが、結果を見れば差がつかますし、伸びもわかります。運動会でも、未だに対抗形式をとっていますし、種目ごと順位もつけています。勝つために努力すること、勝敗を受け入れることは大事な素養の一つだと考えています。

持久走が得意な子の賞揚の場がなくなるのではないかという意見も出てくるでしょう。高学年の中には十分に負荷をかけても大丈夫な子もいます。この時間では、物足りないでしょう。伊豆市には、市民マラソン大会や市町対抗駅伝の練習会、陸上クラブもあります。校内にとどまらず、他校を含めた中で挑戦してほしいと思います。

年度当初は参観会の一つという位置づけでしたが、昨年度までのような見応えのあるイベントとならないことが予想されます。もちろん、来校し応援することはできます。主旨をご理解の上、参観ください。

